



緑化建設協会だより

発行所 社団法人 石川県造園緑化建設協会 広報委員会

発行責任者 山崎 純

〒920-0374 金沢市上安原町137街区7番地 TEL076-269-1110 FAX076-269-1279

「木場潟よ、カヌーを通して甦れ」



石川県議会議員

藤井義弘

木場潟は石川県内、唯一昔の姿を留めるユニークな水郷的な景観と広い親水空間、緑の森林地帯を背後にサッカークラブの会場があり、湖面にはカヌーの浮かぶ多目的な都市公園として発展を遂げております。

今では年間三十万人もの多くの利用者が集っており、早朝、日暮れ時にはジョギングや歩行者の「おはよう」「おつかれ様」の掛け声に回りの樹木の緑が健康を祈っているかのごとく湖

面に写し出されている様子は小松市最大の財産であると思う。

私と木場潟とは深い御縁がある。それは昭和五十八年石川県体のカヌー会場の決定以来であります。先輩議員の紐野義昭氏は金沢市の犀川でのカヌー競技に活躍されており、私は地元、木場潟の担当でありました。しかし決定されたものの当時の木場潟は悪臭が漂い、気持ちの悪いクラゲの様なものも浮いている等、全国ワースト2の水質であり、悪名高い潟でありました。この様な場所での決定を日本連盟がなぜ開催地として選んだのか心配でした。しかし、連盟の答えは簡単、「私共はクリーンリバーが信条であり、この潟を浄化に向けるのが大会開催地の決定の要素の一つである」との事、以来周辺町と連携が始まり台所排水にも気配りをいただき、浄化への道筋が開かれました。お陰様で平成三年の国体開催時には水質も改善され、匂いもなく順調に運営され、感謝でいっぱいでした。本国体には秋篠宮両殿下の行啓がありました。殿下はナマズの殿下とも言われる程趣味を持っておられ、是非この



機会にと木場潟のナマズの捕獲に苦勞し、私の庭に生け簀を造り何日も生かしておきました。夜、帰ってくる心配の余り見回りをすると外に飛び出し、グツツリとしているのを見つけ生け簀に戻すなど思い出一杯であります。

お陰様で石川のカヌーチームが総合優勝し、以来日本のカヌー王国とまで言われる程、定着し、木場潟はカヌーのメッカとして世界・アジア・日本の主大会が開催され、一層環境の整備が望まれる様になったのです。

折りしも木場潟の大手繊維会社の相談役、小田清孝氏の亡母の記念に何か樹木を植えたいとの話があり相談されました。私は提案しました。それは日本カヌー連盟会長であった、衆議院議員の桜内義雄氏が日本桜の会の会長でもありカヌーとの御縁で木場潟に是非、桜を植え、市民の憩いの場として桜の園をと思ったのです。それも2001年にちなんで2001本の桜の植樹であり、大変でした。県当局にも応援をいただき、市民大勢の参加のもと盛大に植樹式も開催され、大きな期待を寄せました。ところが残念な事に二年後には半数の桜の木が枯れてしまい、夢もしほみ、以来公園管理者とも前後策に頭を悩ましています。管理上の問題もあり、もともと木場潟の園地の土壌が桜の木と合っていないかったのが原因の大きな要素でもある様です。

以来環境に合わない樹木の寄付は問題であるとの認識の上、検討する事になりました。緑化協会の皆様とのお付き

合いが早ければと反省する事しきりです。

この様に木場潟の整備もどんどん進み、いよいよ十八年度が整備計画二期の最終年度です。潟一周六・四キロの周遊園路も環境にやさしい舗装が出来上がり益々大勢の市民の来園が期待されます。今では車椅子の方々も遠方より利用されており有難い事です。湖の中には菖蒲の園もあり花咲き揃う頃には見事です。利用の皆様は花を見、手にとりて楽しんでまいります。是非、車椅子の方々も近くまで行くことが出来るように園路の延長を要請しております。

霊峰白山を眺めるに石川県一の地、木場潟を緑でつつみ、スポーツ・憩いの場として南加賀の中心ゾーンとして今後再なる整備に向けて一層の努力を傾中したいと思います。

緑化協会の皆様方の益々の御支援、御理解を心から御願致します。



地球温暖化防止と里山



石川県議会議員 稲村 建 男

日本経済は長い景気低迷からようやく脱却する気配がみられ、この3月には、東証株価は、5年7ヶ月ぶりに1万7000円台を回復し、投資家は、国内経済に明るさを見いだしているようです。とはいえ、地方経済はここ数年間にわたる公共事業の抑制等から厳しい環境下におかれているのではないでしょうか。貴協会の皆様におかれましても、経費の削減や合理化により、この難局を乗り越えるべき努力をなされておられることと思います。

境が著しく悪化することが懸念されており、すでに地球温暖化が顕在化し、2005年2月には京都議定書が発効され「地球温暖化対策推進大綱」が定められたところであります。これによれば、環境と経済の両立に資するような仕組みの整備・構築を図り、国、地方公共団体、事業所、国民といったすべての主体がそれぞれの役割に応じた取り組みが必要である。といった基本的な考えが示されており、

個々の対策がまとめ上げられていますが、二酸化炭素の吸収量確保対策として緑の対策もうたわれております。

都市緑化の推進や森林の整備、木材・木質利用の促進によって6%の二酸化炭素削減のうち3・9%程度の吸収量の確保を目標としております。しかるに車窓から目に入る里山は、昭和30年代以降の燃料革命以降放置され、見苦しい様相を呈しております。緑・樹木が光合成作用により二酸化炭素を樹体に蓄積させるには樹木の健全な成長があつてこそその目的が達成できることとなります。最近では、こんな状況を見かねて県下各地でボランティアによる取り組みも始まりつつあります。里山を保全するため、企業や団体が活

動を開始はじめたことは、これまでの行政一辺倒から一歩踏み出した力を感じます。

協会の皆様方は、緑の育成・管理のスペシャリストでありま

す。これまで培われた豊富な知識や経験を活かして里山の整備にもお力添えをお願いしたいと思います。



松くい虫に「ハム」の調査・研究

農林工事部会 部長 北総一朗

現在、スギやヒノキ等と共に日本を代表する樹種である松は、松くい虫(マツノザイセンチュウ)によって毎年約90万㎡程度が枯れていると言われ、石川県も例外ではなく多くの被害が出ている。私たち石川県造園緑化建設協会も松くい虫被害は大きな問題と考え調査・研究をおこなう事としました。

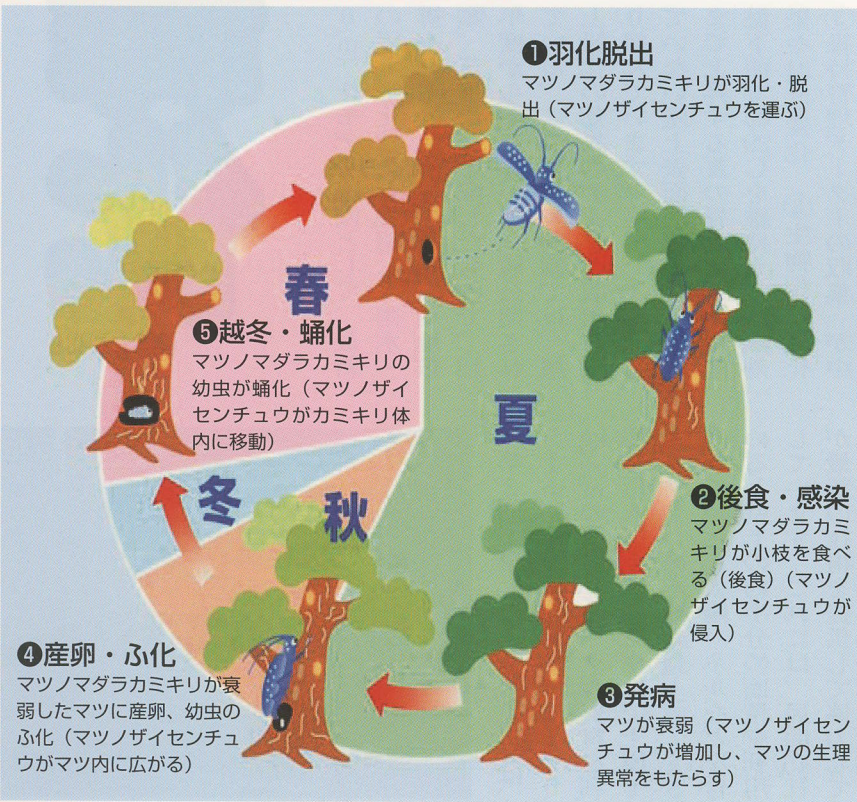
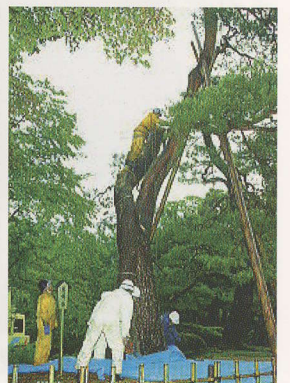
現在松くい虫対策として行われている方法ですが、松くい虫拡散の媒体となるマダラカミキリの駆除を目的とする薬剤の空中散布、薬剤を樹木に穴を開け樹幹注入する方法、また松くい虫に強い抵抗性を持った松の植栽等があります。が、空中散布については殺虫剤による健康被害を懸念する住民の皆さんの声や、生態系への影響が問題視されており、樹幹注入については注入の際にあける穴で樹勢に与える影響やコストが高いなどの問題があり、当協会としては抵抗性松に注目をしています。

昨年、農林工事部会では静岡の抵抗性松の生産地へ行き、育成方法や菌の管理・接種方法、また生産の状況を視察してきました。

当協会では、今年度三地区会(能登地区会、金沢地区会、加賀地区会)での調査研究を行う事とし、各地区会にて試験植栽地の選定、継続的統計データ収集方法の作成・体制づくりをし、継続的にデータの収集を行い分析していくこととしました。また一部の防風

林ではすでに抵抗性松、抵抗性候補松を植栽しているため、それらの育成状況も調査対象とし比較検討していきたいと思えます。

近年、石川県林業試験場でも抵抗性松の研究がされており、抵抗性松の苗の生産も始めているため、当協会もこれらの機関の皆さんと情報交換等を行いより良い調査研究となるよう、協会員各社の協力をえてこの事業を進めて行きたいと思っています。



近年の特殊緑化



金沢21世紀美術館 『緑の橋』



都市のヒートアイランド現象、熱帯夜の増加、異常気象などの都市を中心とした気候変化が問題とされ一定の開発を行う際に屋上を緑化することを義務化する自治体も多くなりました。1997年(平成9年)京都會議で京都市議定書を採用されたのを経て、国土交通省も3年後の2000年(平成12年)より屋上緑化で都市でのヒートアイランド現象の緩和、市街地の緑化の推進手法の1つとして注目し合同庁舎3号館に、第1期工事付加加重180kg/m²(50

0m)をモデル庭園として、最新の屋上緑化技術を使用して雨水・排水利用の池や多様な樹木や地被類、芝生などを配したもので、13年度から冬を除いて一般公開されている。このモデル庭園では、屋上緑化の効果のデータ収集に取り組んでいます。主に ①緑化していない屋上表面温度が60℃近くまで上昇する夏の昼間に、植栽基盤下面で約29℃を維持する断熱効果や温度変化 ②生物相の変化 ③維持管理データの収集 が中心です。2002年(平成14年)



従来型の壁面緑化

の第2期工事(1200m²)では、シート防水を施し付加加重120kg/m²の所にリサイクル資材を利用した人工土壌に芝生地で土厚t=100、高木植栽地土厚t=500で緑化し太陽パネルなどを含めると屋上の約半分の面積を利用しています。これには、民間45社が最新の技術を提供して協力しています。10分おきに収集されたデ



1ターは解析され今後の屋上緑化の指針になると期待されます。

2005年3月25日から開催された日本国際博覧会『愛・地球博』では、世界最大級の垂直巨大壁面緑化『バイオ・ラング』が注目されました。バイオ・ラングの合言葉は「生物の力による都市の肺機能」という意味があり、ヒートアイランド現象の緩和をはじめとした未来の都市環境の改善を提案していました。50社以上が参加し18のシステムで構成されました。いよいよ特殊緑化も屋上緑化から壁面緑化へと進化多様化してきてい

るようです。従来の壁面緑化は、つる性植物を植栽し植物の成長をまたなければならぬところがありメリットとして工事費が安価ですむ反面デメリットとして植物の成長に時間が掛かる事が問題でした。壁面緑化システムの開発によりイベント会場などの簡易施工にも対応できる仮設型の緑化システムも今後需要

性が見込めそうです。また、建築設計においても話題になった二番町ガーデンの開発では、立地環境や地域住民への配慮、利用者の利便性・メンテナンス性を考えて緑

化を建物のデザインの一部とした開発が進められるような流れになってきました。単なるデザインとしての緑化に留まらず植物の特性を考慮した提案がより必要になっていくと思われまます。造園と建築が一体となり日当たり、植生、地

域性などを考慮し植物がデザインの一部、建物の一部になることが望ましいと思います。究極の壁面緑化は、金沢21世紀美術館にあるフランス人作家であり植物博士でもあるパトリック・ブラウン氏の『緑の橋』かも知れません。



二番町ガーデン



カセットタイプの植栽基盤を利用した壁面緑化



地下に大空間を設けた為、屋上緑化システムで植栽されたケヤキ見た目には、地面に植栽されているとしか見えません。

「花・彩・祭おおさか2006」を見て

田中好秋

去る4月6日、今年の全国都市緑化フェアが行われている大阪に足を運びました。

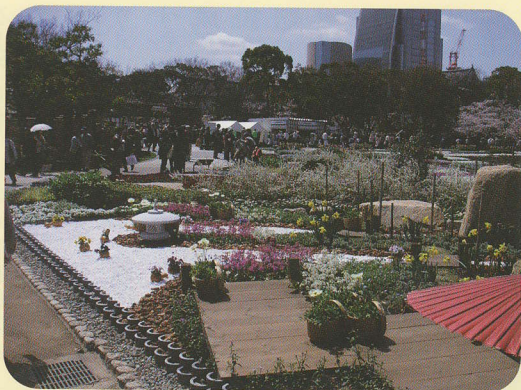
主会場は大坂城公園で、3月25日から5月28日まで開催されます。開場は10時から15分くらい前に到着し、大坂城は初めてだったので天守閣にも入場出来る券を購入しました。この時外国からの方がかなり多い事に気づき、入場までの間配布されたパンフレットを見ると、以前に行った浜名湖や栃木等と比べるとやや規模が小さい事と、大坂城公園という既存の舞台に歴史と花と緑を融合した祭典であることが読みとれました。

天候に恵まれ、時間も限られているので上着をリュックに仕舞いパンフ片手に青屋門から入場し、足早に二の北地区を抜け、西の丸地区に到着。野外ステージでは特に催し物もなく、緑化資材市の会場では一面ブルーシートが敷かれ、お花見モード一色。係の人に聞く

と4月中旬まではお花見が優先で、中旬以降、企業と学生のコラボレーションによるディスプレイが設置されるそうだ。

大手門から有料会場を出て大手前・城南地区を歩いたが、部分的に花や緑で装飾されていたが、桜が満開で屋台も多く緑化フェアというより唯のお花見会場となっていた。

3時間あまり歩き回って感じたことは、今後の緑化フェアは新たに会場を作るのではなく、既存の資源を生かさない予算で集客出来るイベントを催すようになるのではないかと思いました。



アジア初 世界のバラ愛好家が一堂に 世界バラ会議大阪大会2006開催

平成18年5月11日(木)~17日(水)

暮らしの中のバラとの出会い ばらフェスタ大阪

開催日:平成18年5月12日(金)~14日(日)
10:00~17:00

会場:花博記念公園鶴見緑地内「水の館ホール」ほか

入場券:前売400円 当日500円

問合せ 世界バラ会議大阪大会2006実行組織事務局
TEL:06-6631-8760 FAX:06-6631-8741
<http://www.worldrose-osaka2006.jp>

『日本樹木医会 全国大会を 平成18年6月に 石川県で開催します』

- ・開催日 平成18年6月2日(金)
- ・場所 金沢全日空ホテル3階 鳳の間
- ・通常総会 13:00~14:30 樹木医会会員
- ・講演会 14:40~17:15 樹木医会会員、賛助会員、及び聴講を希望される一般の方

第1部 『森林昆虫の大発生と緑化樹管理 : マツ枯れとナラ枯れ』

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 鎌田直人氏
助教 農学博士

第2部 『兼六園等の樹木治療の 歴史と現状について』

元兼六園管理事務所管理課長 中堀宏昭氏
石川県樹木医会顧問

- ・現地研修会 別紙 日本樹木医会石川大会案内
リーフレット参照